

PRIMERGY TX200 S5

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本紙では、セットアップの基本的な流れを説明しています。

本紙をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。本紙に記載されていない項目や詳しい手順については、関連するマニュアルをご覧ください。

■本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、『ServerView Suite DVD2』に格納されています。必要に応じてお読みください。

1 作業をはじめる前に

■ 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧になり、梱包物がすべてそろっているか確認してください。カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『保証書』（『構成品一覧』が添付されている場合は『構成品一覧』）をご確認ください。

■ 『安全上のご注意』を確認する

添付の『安全上のご注意』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

2 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入された場合は、OSをインストールする前に取り付けます。ただし、カスタマイズドサービスをご利用の場合は内蔵オプションの取り付けは不要です。「■ OSインストール前の留意事項」のみ確認してください。

■ OS インストール前の留意事項

次のオプションを使用する場合は、OSインストール前に留意事項があります。

- **USB 接続機器（一部除く）**

フロッピーディスクドライブ、マウス、キーボード以外の USB 接続機器は、OS インストール後に取り付けてください。

- **内蔵データカートリッジドライブユニット**

データカートリッジは OS インストール後に入れてください。データカートリッジが入っている場合は、取り出してください。

- **内蔵ハードディスクユニットベイ変換機構**

内蔵ハードディスクユニットベイ変換機構に搭載している内蔵ハードディスクユニットでアレイ構成済みの場合は、アレイ構成を削除してください。OS インストール後に再度アレイを構成してください。

- **PRIMERGY SX35**

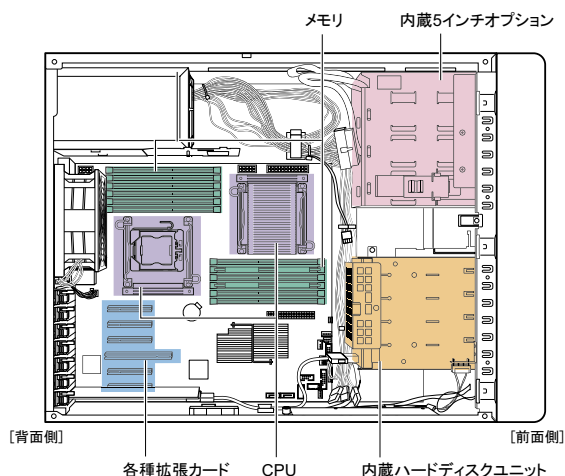
PRIMERGY SX35 に搭載しているハードディスクユニットでアレイ構成済みの場合、アレイ構成を削除してください。OS インストール後に再度アレイを構成してください。

- **ETERNUS などの外付けストレージシステム**

OS のインストールが終了するまで電源を入れないでください。

■内蔵オプションの種類と取り付け位置

🔍 **ユーザーズガイド** ▶▶ 「第2章 内蔵オプションの取り付け」



内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

3 本製品を設置する

必要な設置スペース、設置場所の条件を確認して、サーバを設置してください。

■ 設置条件について

本製品の設置の条件については、『安全上のご注意』をご覧ください。

- ・ほこりの多い環境においては、短い期間でサーバ前面および背面部にほこりが付着します。故障の原因となりますので、設置場所を変更されることをお勧めします。
- ・本製品の騒音値は、実測値で次のとおりです。
標準時 : 稼働時 39dB / 待機時 34dB
冗長構成時 : 稼働時 41dB / 待機時 37dB
専門室での設置を推奨します。オフィスへの設置の際には、十分注意願います。

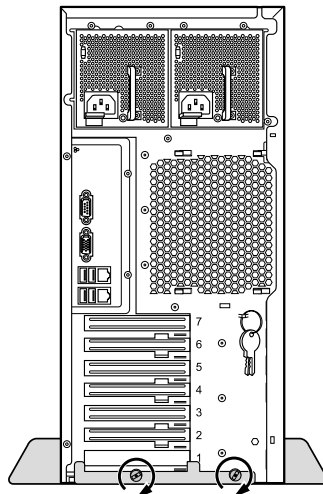
■ ラックへの搭載

ラックマウント変換機構を選択された方は、ラック搭載前に『ラックマウント変換機構取扱説明書』をご覧ください。ラックタイプに変換してください。

ラックタイプの場合は、『ラック搭載ガイド』をご覧のうえ、本製品をラックに搭載してください。

■ フットスタンドの取り付け

タワータイプで冗長化変換機構を選択された方は、フットスタンドが添付されています。背面2箇所を添付されているネジで締めます。



4 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける（ラックタイプのみ）

周辺装置の接続を行う前に、添付のタグラベルを各ケーブルに貼り付けます。タグラベルを貼り付けることによってケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

■ 記入例

タグラベルは、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ 1 枚ずつ使用します。次の記入例を参考にして、各内容を記入してください。

↓ サーバ側

元	TX200 S5	COM #1
先	UPS-01	COM #1

- 接続元のサーバ名を記入します。
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。
- 接続先のコネクタ名／切替機名／識別名／タップ名／コンセント名などを記入します。
タグラベルによっては、接続口番号を記入する欄があります。

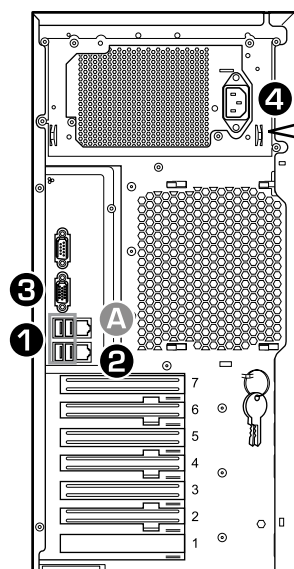
■ 貼り付け方

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルを巻きつけるように貼り合わせてください。



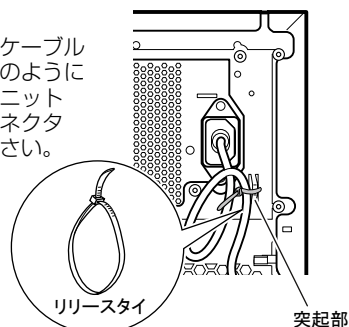
5 各種ケーブルを接続する

サーバ本体に、キーボードやマウスなどの周辺装置を次の順番で接続します。サーバ本体をラックに搭載する場合は、ラックから引き出して作業することを考慮し、余裕をもたせた配線を行ってください。



■ 電源ケーブルの固定

電源ケーブルをサーバ本体に接続後、電源ケーブルが抜け落ちることを防止するため、右の図のように添付のリリースタイでサーバ本体（電源ユニットスロット右の突起部）と電源ケーブルをコネクタから10cm程度余裕をもたせて固定してください。なお、本体の電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜いてください。



- ① キーボード、マウス
- ② LANケーブル
- ③ ディスプレイ
- ④ 電源ケーブル

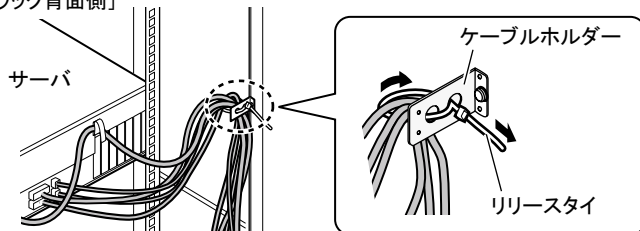
A Management LANポート
詳しくは、『ユーザズガイド』をご覧ください。

■ ケーブルのフォーミング

ラックに搭載した場合は、すべてのケーブルを接続後、リリースタイを使用して、各種ケーブルをまとめてラック背面側のケーブルホルダーに固定します。

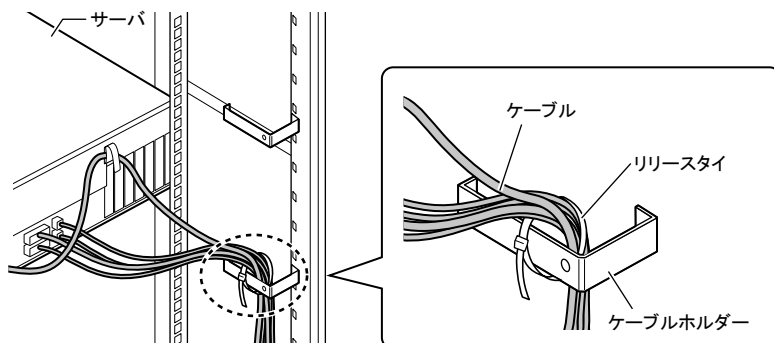
・スタンダードラック／16Uラック／低騒音型ラックの場合

[ラック背面側]



・19インチラックの場合

[ラック背面側]



6 OSを開封する／新規にインストールする

次の手順で OSを開封してください。

OSを新規にインストールする場合は、ServerView Installation Manager (SVIM) を使用します。詳しくは、『ServerView Suite ServerView Installation Manager』をご覧ください。

なお、Linuxを新規にインストールする場合は、SVIMを使用する前にインストール DVDを作成するなど、準備が必要です。

■ Windows Server 2008 の開封

- 1 サーバの電源を入れます。**
そのまましばらくお待ちください。
Windows のセットアップが起動し、「ライセンス条項をお読みになってください」画面が表示されます。
- 2 ライセンス条項をよく読んだうえで、「ライセンス条項に同意します」を選択して「次へ」をクリックします。**
「コンピュータ名を入力してください」画面が表示されます。
- 3 コンピュータ名を入力し、「開始」をクリックします。**
そのまましばらくお待ちください。
「ユーザーは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません。」と表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。**
- 5 「新しいパスワード」と「パスワードの確認入力」に設定するパスワードを入力し、「→」をクリックします。**
「パスワードは変更されました。」と表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。**
「必ず実行してください」画面が表示されます。
- 7 インストール対象のツールを確認し、「実行」をクリックします。**
各ツールのインストールが開始されます。メッセージに従って操作を行ってください。

各ツールのインストール終了時に、システムを再起動するようメッセージが表示されることがありますが、絶対に再起動しないでください。
再起動を行うと、PowerUp Gear での一括インストールが中断されてしまいます。
- 8 インストールの完了メッセージが表示されたら、「終了」をクリックします。**
「必ず実行してください」画面が表示されます。
- 9 DVD を取り出し、「OK」をクリックします。**

10 システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「⇒」の順にクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックします。

11 手順 5 で設定したパスワードを入力してログオンします。

「初期構成タスク」画面が表示されます。

12 必要に応じて初期構成タスクの各項目を設定します。

■ Linux の新規インストール

1 インストール DVD を作成します。

インストール DVD は、RHN (Red Hat Network) からダウンロードして作成します。

RHN への登録については、「Red Hat Network、サブスクリプションの登録方法」(<http://www.redhat.co.jp/FAQ/regist.html>) をご覧ください。

1. RHN にログインします。
2. ISO イメージの公開サイトページを開きます。
インストールするディストリビューションを選択してください。
3. Binary Disc の ISO イメージをダウンロードします。
RHN の画面に MD5 チェックサムが表示されています。ダウンロードした ISO イメージのチェックサムが正しいか確認してください。
4. ダウンロードした ISO イメージから、インストール DVD を作成します。

2 富士通 Linux サポートパッケージ (FJ-LSP) を準備します。

FJ-LSP は、サポート契約されたお客様のみ対象となります。FJ-LSP は、富士通の SupportDesk 契約者様向けサイト (SupportDesk Web : <http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>) からダウンロードしてください。

3 SVIM でインストールを行います。

SVIM のアプリケーションウィザードで FJ-LSP を適用してください。

7 OS インストール後の操作

OSインストール後、運用を開始する前に必要な設定を行ってください。

■ オプション装置の取り付け

サーバの電源を切り、「2 内蔵オプションを取り付ける」で取り付けなかったオプション装置を取り付けます。



電源を切った後、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。すぐに電源を入ると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

■ ServerView エージェントの設定

サーバを監視するための設定が必要です。

■ RAID 管理ツール (ServerView RAID Manager) の設定

アレイ構成を使用する場合は、アレイコントローラおよびハードディスクを監視・管理・保守するための設定が必要です。

■ ホットフィックスの適用 (Windows のみ)

必要なホットフィックスを適用してください。

■ エラータの適用 (Linux のみ)

必要なエラータを適用してください。

■ BIOS の設定

運用に応じて必要な BIOS 設定を行います。設定方法については、『ユーザーズガイド』の「第3章 ハードウェアの設定」をご覧ください。

☐ 運用に応じた BIOS 設定

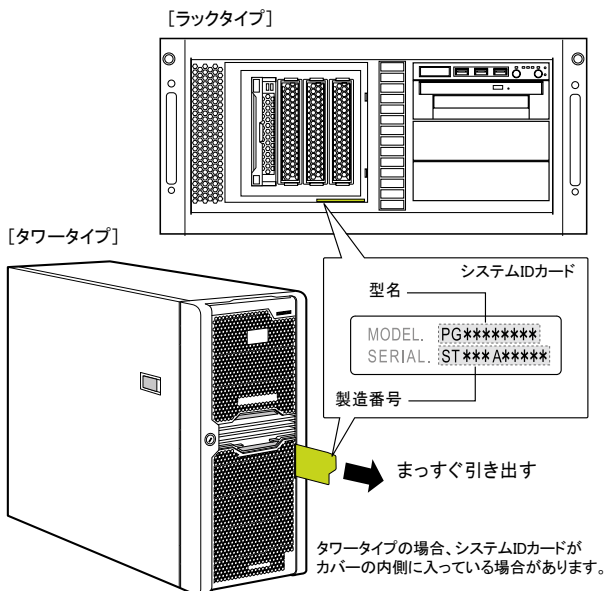
オプション装置を搭載したときは BIOS 設定が必要な場合があります。

☐ BIOS パスワードの設定

セキュリティのため、BIOS パスワードを設定してください。

■ 型名、製造番号の確認

修理相談窓口で連絡の際に必要です。サーバ本体の次の場所に貼付のラベルをご確認ください。



使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。

2. バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4. 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。

6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7. 保証の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010